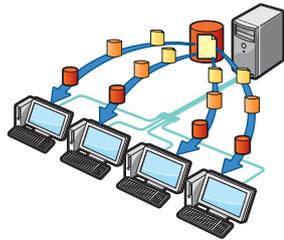


## 導入事例

ネットワークブート方式シンクライアントシステム

ファンタジー  
**Phantosys**



情報メディア課  
元木伸宏 課長代理

### 追手門学院大学

茨木安威キャンパス  
〒567-8502  
大阪府茨木市西安威2丁目1番15号  
茨木総持寺キャンパス  
〒567-0013  
大阪府茨木市太田東芝町1番1号

ホームページ  
<https://www.otemon.ac.jp/>



## 追手門学院大学

### BYODとシンクライアントが学内ITの両輪

追手門学院大学は2021年4月、環境変化に対応する柔軟な取り組みの一環として、茨木安威キャンパスにおける学内シンクライアントシステムを「Phantosys10」に刷新しました。BYOD(Bring Your Own Device)の活用と併せて学内ITシステムの両輪として威力を発揮しています。



追手門(おうてもん)とは城の正門を表す正式名で、1888年に同学院のルーツとなる大阪偕行社附属小学校が大阪城の正門の隣接地にあったことから学院名となりました。そして追手門学院創立80周年記念事業の一環として追手門学院大学が創立されたのは1966年、1968年には当時最新の多目的科学技術コンピュータが大学に導入されるなど、IT活用についても当初から積極的な姿勢で臨んできました。現在のキャンパスは、茨木安威キャンパスと茨木総持寺キャンパスの2箇所があり、経済学部、経営学部、心理学部、社会学部が茨木安威キャンパス、国際教養学部と地域創造学部が茨木総持寺キャンパスとなっています。また学部を問わず1年生はすべて茨木総持寺キャンパスで講義を行います。

同大学のIT活用で注目されるのがBYODの導入です。話題性は高くとも実際の活用については個人の判断に任せられることの多いBYODについて、同大学では2019年4月の新入生からBYOD環境を徹底、現時点では1年生～3年生の全員が、さらに2022年4月には全学生がBYODの環境下で勉強することになります。今



回の「Phantosys10」によるシンクライアントシステムの刷新は、BYODと共存することで、「学生のシステム活用の利便性を高めると共にIT活用の新たな可能性を探ることにつながる」(追手門学院・情報メディア課・元木伸宏課長代理)と期待されています。

## ■ 起動時間の短縮が大きな課題に

同大学では従来からネットワークブート方式によるシンクライアントシステムの活用を行ってきました。その経験の中から、「クライアントの起動に要する時間が長過ぎる」ことが大きな問題とされてきました。学生・教職員の双方にとってクライアント端末の起動時間は重要な要素で、「アプリケーションが立ち上がるまで平均4分という従来システムでは学生の休み時間にも影響するので、この時間をカバーすべく前作業を工夫するなど教職員側でもさまざまな対策を講じてきた」とのことです。ユーザー側に負担が強いることが大きな悩みでした。情報メディア課ではそれまでのシンクライアントシステムを活用してきた経験を基に、他のシンクライアントシステム製品についても検討を重ねた結果、コストパフォーマンスや起動時間をはじめさまざまな問題を解決できるシンクライアントシステムとして「Phantosys10」の採用を決定、2021年3月に導入しました。

さて「Phantosys10」を今年4月から稼働した結果、クライアントの起動に要する時間は「Windows画面が表示されるまでに約45秒、ログイン画面が表示されるまで約1分15秒、デスクトップ画面が表示されるまででも2分とはかからない。個人PCの起動時間に比較するとやや長く感じるかも知れないが、シンクライアントシステムであることを考えると十分に許容範囲」ということで、学生や教職員の評価も上々とのこと。起動時間短縮に加えて「他のシンクライアントシステムに比較すると安定性が高いことが有難い。従来のシステムではトラブルが結構多く、その対応に時間を取られることが多かった。しかし「Phantosys10」を稼働して以来今までトラブルは皆無で、導入担当者としてはこの点が何より有難い」とのことです。さらに「従来のシステムは複数の製品を組み合わせで構成しており、運用コストの高さが課題となっていた。しかしさまざまな機能があらかじめ搭載されている「Phantosys10」は、単一の製品で従来の機能すべてをカバーすることができ、管理のしやすさという面でも予想以上」と述べています。

同大学には現在PC教室4か所に計220台のシンクライアントPCが稼働しています。「学生のBYOD端末では負荷が高過ぎるアプリケーションやライセンスの問題でインストールが困難等、BYOD端末では処理が難しいケースが少なくないので、BYOD環境が充実してもシンクライアント環境によるPC教室の必要性は今後も続く」としており、BYODとシンクライアントシステムが両輪として学内ITシステム環境を支えています。

販売協力会社：  
日本電子計算株式会社 大阪支店  
<https://www.jip.co.jp>

## ■ クラウド化が可能な要素はすべてクラウドに

さて追手門学院大学におけるBYODの成功は他の大学や企業からも注目を集めています。同大学におけるBYODは「できれば持参して下さい」という要望ではなく「学生は必ず持参すること」という要請です。学生が購入するPCのスペックについても、大学側から最低限の数値を明確化し、購入後の保障その他についても学院の関連会社より、補償のついた大学推奨パソコンを販売することなど、BYODを順調に運用するためのさまざまな工夫を行っています。学内のサーバーはすべてクラウドサーバーとし、学生の記憶メディアとしてはクラウドストレージDropboxに統一、BYODからはもちろん、シンクライアント端末からも自由にアクセスできる体制を整えています。今回のシンクライアントシステムのリプレイスと同時に「現時点でクラウド化が可能な要素はすべてクラウド化」したことが、BYODとシンクライアントシステムの効果を更に高めている様子です。

時代が変化すれば環境も変化します。この環境変化をいかに素早く察知していかに柔軟に迅速に対処するか。追手門学院大学の教育理念と教育方針では「予測困難な未来社会において、答えのない問いに積極的に立ち向かう力」「常に日々の革新を旨とし、自己についてよく知る力」の育成について触れています。少子高齢化が進み教育環境への影響が喧伝される中、この環境下での生き残りを賭けて大学の存在価値を更に高めるべく、キャンパスの拡充や規模の拡大、ITシステムの刷新など、予測困難な未来社会に向けた改革を大学としても日々推進しています。現在の学生数は約8千人で、この数は現在も増え続けています。厳しい環境の中、さまざまな変化をいち早くキャッチしてこの変化にすばやく柔軟に対応するBYODもシンクライアントシステムもクラウドサーバーもクラウドストレージも、すべては同大学の基本理念に基づいています。

【追手門学院大学 安威キャンパス Phantosys関連構成図】

